

# 伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後第三主日礼拝

## 2021年6月13日

### 前奏：

#### 聖名による挨拶

**牧師：**父と御子と聖霊の御名によって。アーメン。

**会衆：**アーメン。

**牧師：**主よ、わたしのくちびるを開いて下さい。

**会衆：**そうすれば、私の口はあなたのほまれを告げるでしょう。

**一同：**父と御子と聖霊の神に、栄光が、初めにそうであったように、  
今も、そしてとこしえまでもありますように。アーメン。

#### 招きのことば：詩編 92 編 2-3,5,13-16 節から

いかに楽しいことでしょう 主に感謝をささげることは。

いと高き神よ、御名をほめ歌い 朝ごとに、あなたの慈しみを 夜ごとに、あなたのまことを述べ伝えることは。

主よ、あなたは 御業(みわざ)を喜び祝わさせていただきます。私は御手の業を喜び歌います。

神に従う人は・・・主の家に植えられ わたしたちの神の庭に茂ります。

白髪になってもなお実を結び 命に溢れ、いきいきとし 述べ伝えるでしょう

わたしの岩と頼む主は正しい方 御もとには不正がない、と。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば

**会衆：**私たちは生まれつき 自分中心 わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。

思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

**牧師：**何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子 イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。

ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

#### 使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、  
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、  
陰府(よみ)にくんだり、三日目によみがえり、天にのぼり、  
父なる全能の神の右に座したまえり。

生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず**、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、  
からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。**アーメン**。

## 祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

イエス様が来てくださって、私たちのところにも神の国が訪れました。先週もイエス様の与えて下さる恵みと平安の中を歩ませてくださいました。感謝をいたします。み言葉の力に信頼して、今週も歩みます。どうぞ導いてください。今朝もイエス様の愛と憐れみに心をとめさせてください。そこに赦しと命があるからです。

新型コロナウイルスの感染拡大によって今多くの方々が苦しみの中におられます。私たちも毎日こわくなります。緊張します。どうぞ、助けてください。

病気の人のお世話をしたり、生きていくために必要なものを整えて働いてくださる方々が苦勞しています。お支えください。

今週もビデオやプリントによって、私たちは別々のところで同じ礼拝にあずかります。このために力になってくださった方々を祝福してください。

私たちはよみがえられた主イエス様のみ言葉を聴きます。どうぞお語りください。

このお祈りを、イエス様の御名によっておささげいたします。**アーメン**。

## 使徒書：コリントの信徒への手紙第二 5章6-10節,14-17節

それで、わたしたちはいつも心強いのですが、体を住みかとしているかぎり、主から離れていることも知っています。目に見えるものによらず、信仰によって歩んでいるからです。わたしたちは、心強い。そして、体を離れて、主のもとに住むことをむしろ望んでいます。だから、体を住みかとしていても、体を離れているにしても、ひたすら主に喜ばれる者でありたい。なぜなら、わたしたちは皆、キリストの裁きの座の前に立ち、善であれ悪であれ、めいめい体を住みかとしていたときに行ったことに応じて、報いを受けねばならないからです。・・・

なぜなら、キリストの愛がわたしたちを駆り立てているからです。わたしたちはこう考えます。すなわち、一人の方がすべての人のために死んでくださった以上、すべての人も死んだこととなります。その一人の方はすべての人のために死んでくださった。その目的は、生きている人たちが、もはや自分自身のために生きるのではなく、自分たちのために死んで復活してくださった方のために生きることなのです。それで、わたしたちは、今後だれをも肉に従って知ろうとはしません。肉に従ってキリストを知っていたとしても、今はもうそのように知ろうとはし

ません。だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。

### **福音書：マルコによる福音書 4章 26-34節**

また、イエスは言われた。「神の国は次のようなものである。人が土に種を蒔いて、夜昼、寝起きしているうちに、種は芽を出して成長するが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。土はひとりでに実を結ばせるのであり、まず茎、次に穂、そしてその穂には豊かな実ができる。実が熟すと、早速、鎌を入れる。収穫の 때가来たからである。」

更に、イエスは言われた。「神の国を何にたとえようか。どのようなたとえで示そうか。それは、からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る。」イエスは、人々の聞く力に応じて、このように多くのたとえで御言葉を語られた。たとえを用いずに語ることはなかったが、御自分の弟子たちにはひそかにすべてを説明された。

### **説教「ひとりでに実を結ばせる」**

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、み言葉をとりつぎます。

今日は神の国はどんなものか、というイエス様の教えを聞きます。神の国、よく耳にすると思いますがそれは何のことでしょう。神の国、ということばはマルコの福音書では 14 回出てきます。その最初は 1 章 15 節です。イエス様はこの宣教の初めに、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われました。そしてそのあと、神の国がどんなものかをとえをもって教えられました。

今日読まれたところではふたつのたとえがあります。両方とも種が育って実を結ぶことが語られています。ひとつめは人は種をまいたら、その種が土によってひとりでに育って、収穫のときを迎えるというたとえ、もうひとつは神の国はからし種のように種は小さいが成長すると大きな枝を張る、というたとえです。

たとえを前後の文脈から切り離さないで、しばらくその意味を考えてみましょう。マルコの福音書の中でイエス様は神の国の三つの側面を教えておられます。第 1 は、イエス様は神の国はイエス様のお持ちである権威の及ぶところであると示されました。神の子として威厳をもって教え、悪霊を追い出し、病いをいやし、そして何よりも神でなければ持つておられない人の罪を赦す権威をお持ちです。イエス様が来られたところに神の国が来ました。

そして、イエス様はその権威をもって私たちに仕えてくださるということを繰り返しお示しになりました。神の国には正しい人ではなく罪びとが招かれます(2:17)。イエス様はその権威を恐れて人々に仕えられるために来られたのではなく、むしろその権威をもって仕えるため、人々

の身代金としてご自分のいのちをささげるために来てくださいました(10:45)。十字架で死なれたとき、その威厳ある死に方を見て、傍らにいたローマ兵の隊長が「この人はまことに神の子だった」と告白しました(15:39)。ですから、私たちは権威あるイエス様が私のためにいのちを与えて下さったこと、私の罪を赦して神の子として新しいいのちを与えるために威厳をもってご自分のいのちをささげて下さったことを信じます。そして、罪赦され新しい命をいただいたものとして歩みます。外から来る困難なことではつづれません。内からこみあげる自己中心な思いに支配されません。権威あるイエス様に自分の十字架を背負って従っていきます。

そして第三に、やがてイエス様は全能の神さまの右にすわり、大いなる力と栄光を帯びて、天の雲に囲まれて私たちのところに来てくださり、神の国をもたらしてください。イスラエルの神殿の大祭司や民に神様の律法を教えるファリサイ派の人や律法学者たちは、イエス様がこのようにご自分を父なる神様と同じ権威を持つ者とするので、イエス様が神様を冒瀆する死罪にあたる者だと判断して、十字架の刑罰のを求めました。

さて、今日の神の国の第一のたとえは、人が種をまいたらひとりでに成長して収穫まで至るというものでした。「ひとりでに」と訳されていますが、オートマチックということばです。それは、外からの助けがなくてもそれ自体の力で育っていく、ということです。

イエス様が少し前になさった四つの種のお話があります。これも神の国のたとえではあるのですが、道端に落ちた種は空の鳥がくわえて食べてしまい、岩地に落ちた種は芽を出すのですが根がないので日照りや困難なことがあると枯れてしまいます。茨の土地は豊かですが、そこに落ちた種は根を張っても茨におおわれ、自分の自己中心な願いが育って実を結びません。よい地に落ちた種はすくすく育つ30倍、60倍、100倍の実を結びます。よい地に落ちた種は「ひとりでに」育ちます。種はイエス様のみ言葉です。ひとりでに実を結ぶというのは、イエス様のみ言葉であるその種が、その通りに受け止められて、その土に根をおろすからです。種であるイエス様のみ言葉に力と命があるから収穫されるまで実を結ぶというのです。

あなたや私はいかがでしょうか。イエス様のみ言葉の権威と力をそのまま受け止めていますか。マルコの福音書に何度も出てくるのですが、自分の病気や家族の病いなどで人生で出口の見えない暗闇が襲ってとても困っているとき、イエス様が来られたことを聴いて出て行って、イエス様の前にひれ伏して「私を憐れんでください、助けてください」と言っています。10章ではエリコに住んでいた盲人のバルティマイがイエス様が通られるのを聴いて「ダビデの子、イエスよ、私を憐れんでください」と叫び続けました。イエス様は目をみえるようにして下さって「あなたの信仰があなたを救った」と言われました。信仰はイエス様の憐みを唯一の希望とする信頼です。み言葉の権威、イエス様の権威におすがりしている姿ですね。

私を憐れんでください、という心は、自分にはもう力も知恵も残っていないので、ただあなたの憐みのみにすがっています、という気持ちです。すべてのことをイエス様から与えられるように期待して、私を憐れんでください、と祈る姿です。

そのとき自分にはイエス様と取引をするような資格がないとわきまえています。イエス様、私はこれまでの償いをしますから、なんでもあなたの言うとおりにしますから、あなたに喜ばれるような心に変えますからと、できないことをしますと約束して神さまの助けを前借りしたりしていません。ただ、私を憐れんでください、と言っています。

また、私を憐れんでください、という心は、これまで自分もそんなに悪いことをしてきてないし、人並みの正義感をもって自分を律して歩んできたし、困難な試練が私にあるというのは、神様、少し不公平なのではないですか、と神様に要求を突きつける心でもありません。

きよい神様のみ前に、私は立つこともできない汚れた罪びとです。マルコの福音書二章でこんなことが記されています。からだの不自由な友人をイエス様に会わせたいという一心で、イエス様のおられた家の屋根をはがして友達をベッドごとイエス様の前につり下ろした大胆な四人の友がいました。イエス様は彼らの信仰を見て、あなたの罪は赦されました、と言われました。イエス様は神様です。罪を赦す権威をお持ちです。私たちは祈るのです。「イエス様、あなたはあなたの十字架によって私の罪を赦した、と言われます。またあなたは、あなたの復活にあずかって私が神の子として生きるいのちをいただいたと言われます。」そのように私たちはイエス様の約束を信じ、その権威あるみ言葉の約束に基づいて、「どうぞわたしを憐れんでください」と、イエス様のみ前にひれ伏して祈るのです。種がひとりでに成長する、というのは、イエス様がみ言葉の約束の通りにあなたを憐れんでくださる、というイエス様の権威です。

もう一つのたとえがありました。からし種のたとえです。からし種は数ミリの小さな種です。しかし、成長すると4-5メートルにもなります。考えてみるとほんとうに不思議ですね。野菜も種を植えたら育てておいしい実を実らせます。果物もそうですね。世界中で、歴史の始まって以来ずっと種は育てて実を結んできました。当たり前のことですが、あの小さな種に何が入っているのだろう、と考えれば考えるほど不思議です。

どのように種がそんなに大きく育つのでしょうか。岩地に落ちた種のように困難に襲われたらそこで枯れてしまうと育ちません。また、茨の中に落ちた種のように心の内側からこみあげてくる自分中心な欲や思いに支配されおおわれてしまうと育ちません。試練は外から、誘惑は内から来ます。

試練は外から来ます。イエス様は舟で湖を渡りました。嵐にあって死の恐怖のどん底に突き落とされた弟子たちが舟のともの方で寝ていたイエス様をおこして助けを求めたとき、すぐに風や波を叱ってくださいました。凧になったのです。イエス様が同じ舟に乗ってくださるのならなぜ恐れる必要があるのでしょうか。イエス様の権威に信頼しておけばいいのです。

誘惑は内側から来ます。イエス様はマルコの七章で、人の中から出てくるものが人を汚すとされました。みだらな行い、盗み、殺意、姦淫、どん欲、悪意、詐欺、好色、ねたみ、悪口、傲慢、無分別など、人の心からは悪い思いが出てきて人を汚します。そのような罪深い思いは強烈に私たちを支配します。努力や節制でどうにかなるものではありません。きまりをまじめ

に守って何とかなるものではありません。そのような性質は改善しません。死ななければなりません。しかし、喜んでください。イエス様はそのような私たちの罪深い性質を十字架の上で代わりに死んで終わらせてくださいました。私たちはイエス様の罪を赦す権威によって、誘惑に弱い自分がイエス様によって肉の思いに打ち勝つ命を与えられました。

日々の小さな出来事のなかに、私たちはたえず自分の思いに誘惑が挑戦してくることを覚えます。少しくらい、みんなもやってる、一回だけだから、わたしは特別だから、ともってもらしい言い訳を自分にして、罪の力に身を任せて抵抗すらしません。しかし、そこにからし種のような小さな信仰でもイエス様の赦しといのちを与える権威を信じるには十分です。私たちの信仰はとても小さいものです。けれどもイエス様の権威は偉大です。イエス様からいただく赦しといのちを毎日自分に与えられた贈り物であることを、少しでも信じて歩みましょう。試練がきたときに倒されてしまい、肉的な欲望や世のまどわしにほんろうされてしまう日々の戦いのなかで、岩地や茨の土地ではなく、イエス様はご自分の権威によって私たちに信仰を与えて、イエス様の赦しといのちにあずからせてくださって、今週も実を結ばせてくださいます。

イエス様は、「時が満ちて神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われました。今週もまっすぐそのイエス様のみ言葉を受け止めて、自分の力や知恵に頼らず、また自分の思いや欲望に支配されず、イエス様に赦されて、神の子としていただいた新しいいのちを生きていきましょう。神様に感謝をし、苦難の中にいる友をイエス様を紹介してイエス様のところにお連れしましょう。自分の心との戦いのなかにいる友達を、イエス様の権威によって自分に打ち勝って愛と真実に生きることができるとお分かちしましょう。こんな私たちが、実を豊かに結ぶ神の子としてくださったのですから、この一週間もいのちにみなぎって人々に幸せを運ぶ、実を結ぶ歩みをさせていただきましょう。

マルコ 4:28 土はひとりでに実を結ばせるのであり、まず茎、次に穂、そしてその穂にかな実ができる。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いを、キリスト・イエスにあってまもってくださいます アーメン

### 讚美歌 506 番 「たえなる愛かな」

1 たえなる愛かな、あめなる御神(みかみ)は 御子をも惜しまで くだしたまえり

※み栄え あれや み栄え あれや み栄え み栄え 御神にあれや

2 主イエスは世のため 十字架にかかりて 仰がれたまえり いのちのきみと ※

3 父なる御神と 御子なるイエスとの 救いの み恵み はかり知られず ※ **アーメン**

### 主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用のかてを今日も与えたまえ。  
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みに  
あわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり  
アーメン

#### **頌栄の讚美歌 541 番**

父、御子、御霊のおお御神に ときわに たえせず み栄えあれ み栄えあれ。 **アーメン**

#### **祝福のことば**

仰ぎこい願わくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき御交  
わりが、それぞれのところで共に礼拝にあずかっておられる一同とともに、今日も、この一週  
間も、いく久しくとこしえまでも、ゆたかにありますように。 **アーメン**

#### **アーメン三唱、後奏**